

川崎重工業株式会社 第58回・59回・60回無担保社債(社債間限定同順位特約付)レポーティング(2026年7月末時点)



2021年7月15日発行の第58回債(サステナビリティボンド)・2022年7月14日発行の第59回債(グリーンボンド)・2024年2月29日発行の第60回債(トランジションボンド)については、調達資金の全額を対象プロジェクトの一部に充当しており、未充当残高はありません。本社債の資金充当による環境・社会効果の各種指標は以下のとおりです。

クライテリア	プロジェクト	資金充当状況			インパクト・レポーティング(第58・59・60回)	
		第60回 (調達額: 100億円)	第59回 (調達額: 90億円)	第58回 (調達額: 100億円)	アウトプット指標	アウトカム指標
自動PCR検査 ロボットシステム 普及 	コンテナ式PCR検査システム関連の開発投資			全額 充当済 (20億円)	自動PCR検査ロボットシステムについては、高精度かつ大量の検査が実施可能な特徴を生かし、医療従事者による感染リスクの低減、早期の旅客需要回復への貢献、などこれまで社会課題に対してソリューションを提供して参りました。PCR検査件数は2023年度までに約85万検体に達しました。 なお、当事業については一定の役割を終えたと判断し、24年4月までに設備に含まれるロボットなど当該設備を処分いたしました。従い、資金充当状況または検体数について今後の更新はありません。	
	コンテナ式PCR検査システム関連の製造投資					
	自動PCR検査プラットフォーム(WEB予約システム等)の開発投資					
クリーン水素 サプライチェーン 構築 	クリーン水素サプライチェーン構築に向けた開発・実証投資	全額 充当済 (80億円) (※1)	全額 充当済 (90億円)	全額 充当済 (80億円)	● 研究開発、実証の進捗状況 2025年5月、当社が出資する日本水素エネルギー株式会社(JSE)は、液化水素サプライチェーン商用化実証の中核設備となる液化水素基地「川崎LH₂ターミナル」(神奈川県川崎市扇島)の建設工事に着工しました。2025年11月には起工式を開催し、当社は水素液化設備、世界最大の液化水素貯蔵タンク(貯蔵容量50,000m³)、液化水素用ローディングアームシステムなど世界初の商用規模の水素荷役設備を現在建設しています。(※2)さらに、2025年12月に当社はJSEと世界最大となる40,000m³型液化水素運搬船の造船契約を締結し、川崎重工坂出工場にて建造を開始しています。(※3)これらの設備・技術を活用した商用化実証を通じて、国際液化水素サプライチェーンの実現に必要な性能、安全性、信頼性および経済性等の要件を2030年度までに確認します。 - また、当社は水素関連製品の開発も進めており、2026年1月には水素液化プラント向け遠心式水素圧縮機の実証運転を開始するなど、来る水素社会に向けて水素需要の創出も推し進めています。(※4)	● 水素利用による CO₂排出削減量
	クリーン水素サプライチェーン構築に向けた製造投資				● 輸送したクリーン水素運搬量 (※5)	
水素クリーン エネルギー利用 (混焼) 	発電用水素ガスタービン(混焼)の開発投資	全額 充当済 (20億円) (※1)			● 研究開発、実証の進捗状況 2026年2月、当社は帝人株式会社松山事業所に、水素混焼対応可能なDLE燃焼器を搭載した8M級ガスタービンコージェネレーションシステム「PUC80D」(計4基、合計発電出力:約30,000kW)を納入し、稼働を開始しました。本製品の導入により、同事業所では石炭・石油から都市ガスへの燃料転換を実現し、年間約20万トンのCO₂排出量削減(2018年度比)が見込まれています。(※6)また、当社はお客様の多様な水素利用ニーズに応えるため、水素混焼から専焼(水素100%)まで幅広く対応した水素ガスタービンに加え、2025年9月には、水素を30%まで混焼可能な大型ガスエンジンを世界で初めて販売開始しました。(※7) - これらの製品は、天然ガス・都市ガスと水素の両方を燃料として使用できる「水素Ready」製品であり、水素が大量に供給されるまでの間、既存のエネルギーインフラを活用しながら段階的に水素利用を拡大できるトランジション技術です。 - 今後は、大型ガスエンジンについても水素専焼に向けた開発を進め、水素利用のさらなる拡大と脱炭素社会の実現に貢献していきます。	
	発電用水素ガスエンジン(混焼)の開発投資					

※1 2021年度～2023年度の新規支出及びリファイナンス資金として充当
 ※2 プレスリリース: https://www.khi.co.jp/pressrelease/news_251127-2.pdf
 ※3 プレスリリース: https://www.khi.co.jp/pressrelease/news_260106-1.pdf
 ※4 プレスリリース: https://www.khi.co.jp/pressrelease/detail/20260319_b2.html

※5 事業計画の変更により、目標を「2030年度までに日本へ3万t/年以上の水素運搬が可能な商用化実証液化水素運搬船1隻の建造完了」に変更いたしました。
 ※6 プレスリリース: https://www.khi.co.jp/pressrelease/detail/20260421_1.html
 ※7 プレスリリース: https://www.khi.co.jp/pressrelease/detail/20250930_1.html